

編集後記

研究誌第2号ができました。昨年末に創刊号を出したばかりなのに、もう次の号ができあがりました。

この研究誌が大切にしていることは、「現場に届ける」ということです。今回も、現場に届けたい熱い論文がそろいました。茅野徑子先生も森 寛先生も中学校の教員です。小・中学校などの教室でも看図アプローチ実践が増えていくことを願っています。

茅野先生は、今年度いっぱい教壇をおりることになっています。今回掲載論文は、茅野先生自ら「中学校教員としての卒業論文」とおっしゃっている力作です。茅野先生は、まだ他にも貴重な実践資料をお持ちです。「卒業論文」続編の執筆も期待しています。また茅野先生の実践が、次の世代の先生方に引き継がれていくことを願っています。

看図アプローチは、看図作文の研究が発展して生まれてきたものです。看図アプローチを洗練していくためには看図作文の研究も欠かせません。森 寛先生は、看図作文授業の達人です。森先生は日本で一番多く看図作文授業を積み重ねてきました。森先生には看図作文研究の基礎づくりの段階から力を貸して頂きました。森先生が担当しているクラスの生徒が、森先生のことを「レジェンド」と呼び、リスペクトしている光景に出会ったことがあります。森先生は柔軟に頭をはたらかせることができるアイデアマンです。今回も「誌上模擬授業」という斬新なスタイルで看図作文の授業づくりポイントを紹介してくれています。「模擬授業」と言っていますが、実際には、たくさんのクラスで実践を繰り返すことによって得られた授業づくりの「エッセンス」です。森先生の論文を読まれた方は、ぜひ森プランをご自身の教室で実践してみてください。看図作文のよさ・おもしろさが実感できると思います。

茅野先生・森先生はベテランの実践家ですが、萩尾耕太郎先生は、新進気鋭の研究者です。萩尾先生は、私たちがもっていない領域の知識とスキルを身につけています。例えば、生徒たちが授業をどれだけ理解しているか、授業の中でどのような感情の動きをしているか、といったことを最新の機器を使ってモニターする技術をもっています。のみならず、得られたデータの解析手法も熟知しています。これらは、看図アプローチ実践のプロセスや成果を評価していくための重要なツールとなります。萩尾先生は、本誌掲載論文の中で「看図アプローチ研究を手伝っていきます」と決意表明してくれています。ありがとうございます。ぜひお願い致します。

本当に多様な人材に支えられて看図アプローチは発展しています。みなさま、これからもよろしくお願い致します。

文責 鹿内信善

————— 全国看図アプローチ研究会研究誌 2 号 —————

発行年月日 2020 年 2 月 13 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員
石田 ゆき
伊藤 公紀
鹿内 信善 *
萩尾耕太郎
山下雅佳実
渡辺 聰
(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会
<https://kanzu-approach.com/>

事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

D T P 石田ゆき